

「やっぱり自分崩しから」

前回訪問した時に、お子さんと旦那さんのことでいさどんに相談をしたさーさん。「すべての問題はあなたの心の表われです。1ヶ月くらいここで心のトレーニングをするといいですよ」といういさどんのアドバイスを受けて、5才のそうくと一緒に再びファミリーを訪れました。

滞在してから1週間が経ち、いさどんと面談する機会がもたれました。そうくんを寝かしつけようとしていたさーさんの希望により、今回はさーさんとそうくんのお部屋で面談することになりました。

いさどん：

1週間経ってみてどうですか？旦那さんと連絡は取っていらっしゃるのですか？

さーさん：

はい、毎日電話をしています。今まで彼は私の話をあまり聞いてくれなかったのですが、「ここに来てから色々なことに気づいたの」と話したら、すごく素直に聞いてくれたのです。「こんなに私の話を聞いてくれる人だったっけ？」と驚きました。私が自分の欠点に気づいた話をしたので聞いてくれたのかもしれませんが、「こんなに話が通じる人だったっけ？」と思いました。

いさどん：

それはまた元の状態に戻ってみたらわかることです。今は距離がありますからね。その距離がちょうどいい距離ということも言えるのかもしれませんが、ただ、以前とは違う反応があったということは良いことです。

さーさん：

彼に「1ヶ月木の花に行ってきたもいいよ」と言われるなんて夢にも思っていなかったので、自分としてはそれが奇跡だと思っています！

いさどん：

今回ここに滞在する一番の目的は、家庭環境を健全にするということでしたよね。

(お布団の中にいたそうくんが、ぐずりながらさーさんのそばに寄ってきました。)

さーさん：

そうくん、どうしたの？お腹が空いたの？

そうくん：

熱い。。。

さーさん：

熱いの？

（さーさんはそうくんを膝の上に乗せてあげましたが、そうくんはまたすぐにぐずり始めました。）

さーさん：

どうしたの？そうくん、おっぱい飲もうか？

（さーさんはそうくんにおっぱいを飲ませ始めました。）

いさどん：

ところで、この子は今いくつですか？

さーさん：

5才です。

いさどん：

5才でなぜおっぱいがいるのですか？

さーさん：

レイキの先生に「小学校くらいまではあげた方がいいですよ」と言われて、もともとは3才くらいまででやめようと思っていたのですが。

いさどん：

小学校まであげることはいいのですが、今、あなたとこの子の関係は健全ですか？こうやってお母さんが大切な話をしている時に間に入ってきたり、ひとりでは寝つけませんし。

さーさん：

そうですね。「そのことについて言われるのかな」と思っていました。ただ、私には。。。

いさどん：

例えば、あなたの旦那さんのように今でも抱っこしてほしいと思っている人がいますよね。

さーさん：

はい。

いさどん：

そうすると、「この子は子どもの頃に十分抱っこしてもらったから、大人になって抱っこ  
のいらぬ人になる」というのがあなたの考えですよ（笑）。

さーさん：

そうです（笑）。

いさどん：

そういう安易な方法でいいのでしょうか？今、あなたが旦那さんにしっかりとおっぱいをあ  
げたら、彼は自立するのでしょうか？

さーさん：

しないと思います（笑）。

いさどん：

それは心の体質です。

さーさん：

どうしたら彼が癒されるのか、満たされるのかわからなくて。。。でも、昔は恐かった彼が最  
近は赤ちゃんみたいに見えるようになってきたので、「何とかやっけていけるかな」と思える  
ようになってきたのです。。。

いさどん：

それであなたがやっけていけるのであればやっけていけばいいのです。誰もその人の生き方に。。。

さーさん：

（いさどんの言葉を遮って）でも、それが彼のためになるのかどうか、私にはわからなくて。。。

いさどん：

彼のためになるのかどうかというよりも、「ため」というのは観方によって色々な「ため」  
があるのですから、その人たちが望んでいればそれでいいのではないのでしょうか？

さーさん：

でも、それで答えが出せないというか。。。

いさどん：

答えが出せないというのは、自分が求めているものがわからないという状態で進むということです。

さーさん：

自分の中からふっと湧き出る想いから行動していけば。。

いさどん：

しかし、あなたがふっと湧き出る想いから行動してきた結果、今こうなっているわけです。

さーさん：

そうですね（笑）。悟ったり向上すれば。。

いさどん：

悟ると簡単に言いますが、悟るとは何ですか？

さーさん：

今を生きることです。

いさどん：

言葉はそれで正解ですが、では今を生きるとはどういうことですか？自分から湧き出してくる衝動のままに生きていけばいいのですか？

さーさん：

本当に魂から湧き出る想いと、自我や傷ついた心から出てくる想いをちゃんと見分けていて。。

いさどん：

それはテストの答えとしては正解です。しかしあなたは今、5才の子におっぱいをあげる時に、「今おっぱいの時間ですよ」と食事をあげるようにしてあげているのではなくて、この子の自己主張の延長にあげているのです。この子はあなたとの関係で自分を主に置いておきたいので、あなたをおっぱいで縛っています。ですから、あなたが自分以外のものに心を向けると「おっぱい、おっぱい」と言うのです。この調子だとおっぱいをもらえないとしたら、今度は「熱い」とか、「おしっこ」とかそういう手段を使って、あなたを自分の思うようにコントロールし始めます。そうやって自分の世界を創っていかうとするのです。

さーさん：

おっぱい自体は夜寝る時だけあげるようになってきていて、昼間はあげていないので。。

いさどん：

今、あなたはおっぱいをあげていますが、今は寝る時ではありませんよね。

さーさん：

今寝そうだったので。。

いさどん：

そうではありません。今この子は寝るためにおっぱいをほしいと言っているわけではありません。あなたが私と話してあなたが自分の方を向いていないから、話をやめさせるために「おっぱい」と言っているのです。

さーさん：

そうですね。。今までもそういう行動は沢山ありました。

いさどん：

それで子育てが楽ならいいのですが、大変だろうと思います。あなたは悟りだとか素晴らしい話を沢山しますが、それがあなたの中にどのように活かされているのでしょうか。あなたは確信を持ってそういう話をしますが、あなたの行動にそれがどれだけ伴っているのかということです。あなたは前回の面談の中でも理想の生き方を沢山語っていましたが、結果としてどれか一つでも成就したものはありましたか？

世の中には色々な子育て法があって、「3才までおっぱいをあげた方がいい」と言う人もいます。ここでは半年で断乳しています。3才でも長いと思いますが、5才というのはちょっと過激ですよ。そういう人たちを眺めていると、子どものペースで日々の生活がまわっている、子どもに振り回されているように観えます。

さーさん：

おっしゃるとおりです。買い物にもなかなか行けませんし、常に子どもの御機嫌を伺っているというか。。

いさどん：

大人がコントロールしているのではなくて、子どもが大人をコントロールしている状態ですから、生活は豊かではないと思います。

さーさん：

サバイバルだなと思います。

いさどん：

昔日本が豊かではなかった頃は、藁でつくったかごに乳飲み子を入れて畑の隅っこに置き、親は一生懸命仕事をしていたのです。子どもはそれを見ながら育ったものです。お母さんは田植えや稲刈りの合間に時々来てはおっぱいをやって育てていました。そして、ある程度子どもが大きくなるとおっぱいをやってもらえないし、昔は栄養もそれほど取らないからおっぱいだって早く栄養がなくなり、そうすると離乳食なんて立派なものではなく親が噛んで与えて育てていったものです。さらに大きくなると、「ここにご飯があるから食べるんだよ」と、昔で言えば鍵っ子の時代もあったのです。鍵っ子にしたらそれが理由でくれると言う人もいますが、私が眺めている限り、どんなに配慮してもくれる子はぐれますね。逆に、どんなにほったらかしにしても、貧乏でも、「自分を育ててくれた」と親を大切にしている人はいます。それはその人の魂だと思うのです。過激な虐待があるとか、過激な家族関係を観て育ったらそういう影響が出る場合もあります。だからと言って、環境が悪いからすべての人がそうはなりません。環境が悪いからこそ反面教師で健全になる人もいます。

あなたはすべて、「こういう子にするためにこうする」と常に先に決めていて、それが子育てには弊害にもなると思います。

さーさん：  
先に狙いを決めてしまうと良くないなと思います。

いさどん：  
しかし、あなたはもっとも狙いを決めている人ですよ。あなたの傾向としては、前回でも今回もそうですが、「誰かが言っていた教育法がそうだから」とか、「小学校までおっぱいをあげるのがいいと聞いたから」と自分の想いに共鳴するものだけをどんどん採用していくのです。

さーさん：  
自分から卒乳するのを自然に待つのがいいのかなと思っていて。。自分から「もういらないよ」と言うのを待っているの、「小学校まであげる」と決めているわけではありません。

いさどん：  
では20才になってもほしければあげるのですか（笑）？

さーさん：  
そうですね（笑）。。でも、他の国の部族は成人してもずっと飲むと聞きました。モンゴルのある地域ではずっと飲むというところもあるらしくて。。

いさどん：  
あなたはいつもそんなふう言うのです。前回と同じ話になってきましたが、自分と同じこ

とをやっている人を求めて「自分は大丈夫」と言うのです。しかし、それは世の中全体からすると特殊な事情があってそうなのですよ。モンゴルを抜きにして、例えば日本というところでそれを言ったら、あなたは特殊な人です。あなたがモンゴルの的に生きなければ生きればいい話ですが（笑）。

さーさん：

そのうち忘れて自然に飲まなくなるのかなと期待をしているのですが。。

いさどん：

ですから、それはそれで信念があればいいのです。私はあなたのやっていることに反対しているわけではありませんが、現実には大変でしょう？

さーさん：

振り回されているとは思いますが。

いさどん：

現実には大変であるということと、「いつかそうなってくれる」と思うことのどちらのウエートが大きいのかということですよ。大変でもやり切れるのならやればいいのです。それは大いに実験してもらって私にも結果を見せて下さい（笑）。

さーさん：

実験したいという気持ちはあるのですが、間違っているとわかっているからそれをするのは罪だと思います。。

いさどん：

それが間違っているかどうかはわからないではありませんか？

さーさん：

今こういうふうに言われたので、「やっぱり間違っているのかな」と思いました。

いさどん：

私はあなたが間違っていると言っているわけではありません。ただ、大変だろうと思うわけです。毎日がこんな状態では豊かではありませんよね。しかし、それをあなたが「これが私の生きがいなのです」と言ったら、間違いにはなりませんよね。

さーさん：

「どうなるのかな？」と興味はありますが。。

いさどん：

ですから、やってみたらいいのです。

さーさん：

でも、まわりから見たらはっきりおかしいとわかっていることをやるのはどうなのかなと思います。

いさどん：

まわりから見ておかしいのは、まわりの人がおかしいと言っているのであって、あなたがおかしくないと思っているのならそれでいいのですよ。

さーさん：

そのあたりがとても微妙で難しいです。ちょっとまた混乱してきています。。。真剣に考えたいと思っているのですが。。。せっかくこうやって言ってもらっているということは、私が反省すべき点が何かあるのだと思うのですが。

いさどん：

反省すべき点というのは常にあるものです。人間は常に謙虚でないと成長しませんから、成長するためには反省すべきことは毎日あるべきです。

さーさん：

私はいつもパーフェクトを求めてしまって。。。どこかで私には「人間というのはこんなに完璧な存在なんだ」ということを立証したい心があります。「私たちは足りないと思っていつも余計なことをしてきたけれど、そういうことは必要なかったんだ」ということを立証したいのです。でもそれは、私が何か勘違いをしているのでしょうか？

いさどん

前回は伝えましたが、あなたは世の中が間違っているからそれを覆すための新しい代替案を提示したくて一生懸命やってきたのですが、結果、あなたはあなたが批判している世の中の人たちと同じことをやっているわけです。あなたは新しいこだわりを提示しているだけのことです。そういうふうに私には見えますが。

さーさん：

確かに、私は新しい何かを目指したいというのではなくて、すでにある新しい何かを実証したいという想いが強くあります。

いさどん：

それはこの間の続きの話です。あなたからはモンテストーリーからレイキからヒーリングから

そういう話が次から次へと出てくるのです。そして今回は、「小学校までは」とか「飲みたいまでは」というおっばいの子育て法の話になっています。あなたのお子さんは寝ないからおっばいを求めているのか、おっばいをあげることによって寝させるから寝る時におっばいが必要になってしまったのか、どちらなのかということなのです。

さーさん：  
後者だと思います。私が寝かせたいから。。。

いさどん：  
ということは、寝る時におっばいが必要になりますよね。ここの子どもはまったくそういうことをしなくても、寝る時間になったら寝ますよ。

さーさん：  
話をすればするほど、なぜ私はこんな面倒くさい考え方になってしまったのかと思っ  
ています。

いさどん：  
現実には、あなたは今ここに来ているのです。自分が今までやってきたことに何の疑いもなく、問題意識も感じていなければ、あなたがここに来る必要はまったくないので。旦那さんとのことも子どもとのことも、何も問題意識を持っていなければ来る必要はないのです。しかし、現実にはここにきて私とこうやって時々お話ししながら、この子のことやだんなさんのことを通してなぜそういうことが起きるのかという学びをしているのです。

その時にいつも、「いや、これはこういうわけで、これはこういう理論にのっとってやっているのです」とあなたが言うものだから、「そういう意識があるのなら自分の思うようにやったらどうですか？」となるのです。私がそれに対して「ダメです」とは言えませんから、それはその信念のある人が立証して、自分の人生の中で表現し、もし貴いものであるならば世の中に広めればいいのではないのでしょうか。しかし、現実にはあなたは旦那さんとの付き合いも子育てのことでも困っていて、そしてここに来ているのが事実です。

さーさん：  
実は一番の悩みは、自主保育を地元で立ち上げたいのですが、「あの人は常識外れのことをする」とまわりから言われるのが怖いのです。

いさどん：  
常識外れなことをするといったって、成果が出ればいいですよ。

さーさん：

そこに至るまでが大変なんじゃないかとか、軌道に乗るまでとか。。

いさどん：

この前も言いましたが、この子どもを同じ世代の人たちが見て「ああいう子に育てたい」と思うのであれば、まわりが何を言ったって、それで勢力になりますから自主保育は出来ますよ。ただ、問題はあります。みかちゃんもここに来る前は自主保育の会に参加していましたが、今は、「あれは育児ノイローゼの親が集まって、みんなで傷口をなめあっているような世界だった」と言っています。みんなで話し合えば「同じような人たちがいるのだ」ということで楽にはなりません。現実には何かから解放されるのではなくて、子どもはどんどん親を束縛してきますから、子どもに振り回されることになるのです。りゅうとは今小学校 4 年生ですが、3 才でみかちゃんがここに連れてきた時にはすごい状態でした。ここのメンバーになる前、彼女は歌手でした。子連れでコンサートに行くと、みんなの前で歌うことになります。そこでりゅうとはお母さんを奪われてしまうという気持ちになり、お母さんを奪い返すためにコンサートの邪魔をし出すのです。それで、みかちゃんは仕方がないからおっぱいをあげながら歌ったこともあったと言っていました(笑)。今ふたりには秩序がありますが、では 3 才までおっぱいをあげていたから秩序がある人になるのかといたら、りゅうとは 3 才の時にここに来てお母さんから自立し、ひとりで寝られるようになって、今の関係に育ってきました。あのままおっぱいを飲ませていたらどうなるのかはわかりません。しかし、事実として子どもに振り回されて大変だったみかちゃんがいました。「自分としては良かれと思ってやっていたのですが、心のどこかでは『本当にこれでいいのだろうか?』という気持ちがあって、心が濁っている状態で生活していました」と言っていました。

ここに来てあなたがおっぱいをあげていてひとつ良いことがありました。あなたより 4 日早くここに来ているお母さんがいます。1 歳 8 カ月の男の子と一緒に来ているのですが、あなたがおっぱいをあげているのを見て、「あれではいけない」と思い、「おかげで早速おっぱいをあげるのをやめられました」とすごく喜んで感謝していました。

さーさん：

私たちを見て、「こうなってはいけない」と思ったということですよ。

いさどん：

そうです。人の姿を見て「ああなってはいけない」と思い、それで何事もなくやめられたそうですよ。

さーさん：

おっぱいのことは全然こだわっていないのですが、振り回されているということは。。

いさどん：

ですから、おっばいで振り回されているのですよ。

さーさん：  
おっばいで振り回されているのですか？

いさどん：  
おっばいが接点になっているのです。

さーさん：  
おっばいが接点になっているのですか？

いさどん：  
おっばいをやめると、今度は「おしっこ」とか「うんち」とかであなたを振り回しますが、おしっこもうんちも自由にコントロール出来ないものです。しかし、おっばいはいつでも相手を自由にしようと思いコントロールするための道具に使えるのです。

さーさん：  
昼間は一切飲まないし、さっきも寝ようとしていたので。。

いさどん：  
ですから、あなたがそう言うのなら私は何も言いません。つまり、あなたは「私がやっていることは大丈夫です」と言っているようなものです。それならこの相談の時間はいりませんよね。私があなたに何かを言うと、あなたは「これは誰誰さんの教育法に基づいてやっているのです」と言うものですから、「それならそれでやればいいじゃないですか」となるのです。さっきも、「あなたが子どもに振り回されている原因はおっばいが接点となっているのですよ」と言うと、「でも昼間はいらなくなったから大丈夫です」と言うのです。あなたに自分のしていることを続けていきたいという意志が強いのであれば、何も他の人に聞かなくても自分の意志でやればいいのです。

相談するということは、自分に何か問題事があって、今までは自分のやり方でやってきたけれども、それでは行き詰まったので、相談する相手から改めるための材料をもらい、自分がそれを参考にし取り入れて切り替えていくためにあるのです。今のあなたは他人の言うことを取り入れません。それならこの場は必要ないということです。あなたは常にそういう姿勢です。

さーさん：  
すべてのことにおいてそういう傾向が出ているということですか？

いさどん：

あなたはそういう人のサンプルのようです（笑）。ですから、私があなたに何かを提案すると、それに対する次の話があなたからどんどん出てくるのです。あなたは相手の話を受け取ろうとしません。ですから、努力してもその結果はどのことも成就していきません。

さーさん：

そうですね。この間の話では、それは私と私の親の関係が原因でそうなっているということでしたよね。

いさどん：

それはそうです。それはあなたも認めますよね。

さーさん：

はい。そこを変えるためにはどうしたらいいのでしょうか？

いさどん：

そこを変えるというよりも、そこが影響してあなたは思いこみが強くなり、トラウマになって今のようない行動につながっているとすれば、今やっていることは子どもに対する愛情ではないということです。

さーさん：

たしかに私が振り回されていることは間違いないので、私の心の姿勢がおかしいということはわかります。

いさどん：

では、そこをどうしていくのかというところにフォーカスしていきましょう。そのひとつとして、例えばお母さんとの関係で言えば、あなたのお母さんにここに来てもらい、もう一回子どもの時代をやり直すことは出来ないのです。それはあなたの心の中で乗り越えていくことです。それを乗り越えていく時のきっかけとしてこのおっばい現象があるとしたら、どちらも同時に乗り越えていくということになるのではないのでしょうか？その心のトラウマを乗り越えていくと、もうおっばいは必要なくなってきます。

さーさん：

私の歪んだ心がおっばいをあげるという行為となって出てきているということなのですね。

いさどん：

それはおっばいのことだけではありませんよ。教育の話でもそうです。あなたが世の中に本当に良い教育をもたらそうとしているのかといたら、そうとは言えませんよね。

さーさん：

「実験したい」とか「本当に良い教育法なのだろうか」という好奇心の方が。。。

いさどん：

あなたの場合好奇心ではなくて、自分がこういう状態になったことに対してどこか被害者意識のようなものがあるのです。だからこそ「世の中に健全な教育をもたらさないといけない」とか、自分が満たされていないから、「子どもの想いを十分に満たしてあげないといけない。だから、おっぴいは向こうがほしがらうちはあげればいい」という発想になるのです。しかし、世の中でそんなことを言ったら、「何を言っているの?」と言われてしまうから、どこかの教育法を持ってきて、「ここではこう言っていますよ」とか、「モンゴルでは成人してもおっぴいを飲ませている」という話になるのです。それは眼の前の子どもに対する愛情から言っているのかということです。全部自分の不足を埋めるためにそういう話になっていませんか？

さーさん：

(ひとりごとのように) 子どものことも私の不足から出ていることだったのか。。。

いさどん：

あなたは相手に与えているのではなくて、そうやって子どもが自分を求めてくれることに対してあなたの中の足りないものを埋め合わせているわけです。そういう条件付きの愛情を与えるものだから、子どももあなたと同じことをするのです。

さーさん：

今まで「そうなのかもしれない」とどこかで感じてはいたのですが、「100%そうだ」とは思っていなかったので、今の話はすごくぐさっときました。私は自己愛から子どもに条件付きの愛情をかけていたなんて。。。それはわかっていなかったです。

いさどん：

「それはわかっていなかった」というよりも、あなた流に「こういうふうに解釈すればそれは違うのです」と言えばその通りになるのです。つまり、ひとつの現象があるとすると、私はこちらから見える景色を伝えています。しかし、あなたは違う方向から見ているから、私が見ている景色が見えないのです。私とこの子どもも、私とあなたも全然利害関係がありません。ですから、私はまったく客観的なこととして、あなたがそれを取り入れようが取り入れまいが、「こちらから見るとこういうふうですよ。利害のないところから見るとこういうふうですよ」と情報提供しているわけです。それに対して、あなたは「子どもとこうありたい」とか、「私はこういう子どもにしたい」という利害の中にいるから、見える景色が偏っているわけです。

さーさん：

前回の面談で、人を癒したいという想いは自分の心の歪みから来ていることはわかったのですが、子育てのことまでそうだとは思いませんでした。

いさどん：

同じことです。心に青色が付いていたら、何でも青く見えるのです。

さーさん：

すべてその色でやっているということですよ。

いさどん：

それはそうですよ。

さーさん：

それはまわりの人から見ればわかることなのですね。

いさどん：

だから、客観的な他人の意見を聞くことは大切なのです。しかし、自分が正しいと思っている人にとっては、他人の意見を聞くことは自分を否定することになりますからね。自分のやっていることが正しいと思いたい人は、無理やりにでもどこかから自分の考えを肯定する正解を探してくるのです。それがあなたの状態です。

さーさん：

正解でないと自分が許せないので、常に正解を探している状態です。

いさどん：

そうです。しかし、その正解というのはあなたが納得する正解なのです。つまり、自分の中に問題の種があったとしても、それを問題だと思いたくないのです。自分の中に問題があっ  
てはいけないと思うのです。だから、「こういう考えからするとこれは問題ではありません」と主張するのです。

さーさん：

それは私の強い癖ですね。癒しのはことはわかったのですが、子育てのことはわかりませんでした。

いさどん：

なぜですか？癒しのことと子育てのことも同じ心から発生しているのですよ。

さーさん：

私はここまではっきり言われないと本当にわからないのだと思います。

いさどん：

あなたはいつも同じ色で見ているのですから、旦那さんに対しては何色、子どもに対しては何色、世の中に対しては何色と見ているわけではないのです。すべてあなたという人があなた色で見ているのです。だいたい、あなたはそういう器用な人ではありません。通り一辺倒に同じことをやり続けていく人です。

さーさん：

私は自分の欲求と重ねて、ピアノが習えなかったから自分の子どもに習わせるような親と対して変わらないのだと思いました。結局、私が批判するような悪い事例に自分自身がなっていたということですよ。

いさどん：

しかし、ピアノを習わせたおかげで、その子にピアノの素質があってそれが開花したら、その子は本当にありがたいと思いますよ。

さーさん：

でも、無理やりやらせても。。

いさどん：

いや、それはその人によって正解の場合もあれば不正解の場合もあるのです。あなたはそれを全部間違いとしているのです。私はやわらかくものを捉えています。あなたは「ピアノを強制して習わせるのが間違い」とか、「今の学校教育は間違っている」と全部決めつけていくのです。そして、自分に共鳴するものだけを正解と言うのです。それは、あなたが批判しているようなことよりも、もっと強烈に複雑にあなたがやっていることになりませんか？そして、世の中が行き詰まるのと同じようにあなた自身も行き詰まっているのです。

さーさん：

すみません、またわからなくなってきてしまって。。どうしたらいいのでしょうか？

いさどん：

「どうしたらいいのでしょうか？」ではなくて、先日のブログナイトであなたとの1回目の面談のブログをみんなシェアしましたよね。あれはみんなにとっても良い刺激になって、多かれ少なかれみんなの中にも同じところがあると勉強になりました。きっと、ブログ読者にとっても勉強になっただろうと思います。そうすると、みんなは「あれだけのことがあっ

だから、きっと次はホップ、ステップ、ジャンプとさーさんが別人のようになっていくのだろう」と思っただろうと思います。しかし、あなたはまた元の人に戻っているわけです(笑)。そして、そこでまたみんなは勉強するのです。「人間というのはなかなか難しい。あんなに難しい人がいるのだから、どうりで自分も出来ないわけだ」と、また勉強になるのです。今日のあなたはほとんど初めの面談と同じ状態です。

さーさん：

とにかく今回は委ねようと思ってきました。そんなことを言ってくれる人は他にいませんし。。。

いさどん：

とりあえず、最初の1週間は自由に過ごしていただくので、こちらからは何の声かけもしませんでした。その間、あなたはあなた流にここの子育てを見て、あなた流に大人会議に参加して過ごしてきたわけです。そして今日、「1週間の効果はどのくらい出ているのかな」と様子を探ったわけですが、変わっていませんね(笑)。

さーさん：

私はある宗教団体を追い出されたくらいなので、よっぽどだと思います(笑)。

いさどん：

結局あなたには「学ぶ」とか「委ねる」ということがなかったのです。全部「自分が、自分が」とやってきたのです。「自分が」と言うからには信念があってやりこなせばいいのですが、あなたはやりこなさないのに「自分が」と言うのです。さらに、自分から湧き出してくる新しいものもないわけです。そしてあなたの傾向は自分がいつも正しい側にいたいから、自分の考えを肯定してくれるものを常に探している状態です。よほどあなたは正解のところにいたいのです。

さーさん：

よっぽど間違いたくないというか。。。

いさどん：

そうです。しかし、私がよくみんなに伝えるのは、「間違ふこと、問題事に出会うことによって人は成長するのです。それがありがたいのです」ということです。しかし、あなたは間違ふことを避けて通っています。

さーさん：

とても恐いのです。間違っている自分は生きている価値がないような気がして。。。すべてにおいて引け目を感じている自分を無価値に思っているから、だから無価値ではないように自

分に色々なものをくっつけようとするのかなと思っています。

いさどん：

あなたはそうやって客観的に自分について話していますが、あなたのような人はなかなかいません。それでは心の病気にもなります。あなたが若い頃に躁鬱になったというのも、この傾向がその種になっています。

この子は大きくなってくると結構理屈っぽくて口ばかりで、口ほどにやらない人になりますよ。

さーさん：

あら、困っちゃう！

いさどん：

心の形としては旦那さんとよく似ています。

さーさん：

そうですね。旦那さんにもそういうところはあります。

いさどん：

今この子は口先街道まっしぐら！で、自分では何もやらないで相手に色々と求めているのです。「おっぱい！」とか、「寝させろ！」とか、「僕が寝られないのはママがいけないからだ！」と表現していますよね。しかし本来は、眠ければ寝ればいいのですし、そこで泣く必要はないのです。お腹が空いた時にもそこでぐずったり泣いたりしないで、ご飯を食べればいいのです。秩序というのはそういうものです。

さーさん：

そのあたりは、旦那さんに感じる苦しみをこの子にも同じように感じています。

いさどん：

あなたがそういう子に育てているのですよ。この子は常にあなたをコントロールしようとしているのです。あなたが彼のため以外に動いてはいけないのです。全部自分のために動いていないといけないのです。

さーさん：

そういう想いを満たしてあげればいつかはなくなるのかなと。。。

いさどん：

あなたがそういう想いを満たしてあげればあげるほど、わがママを育てているわけです。

さーさん：

それが忍耐だと勝手に思いこんでいたのです。

いさどん：

それで忍耐が続くのであればやればいいのです。しかし、忍耐を持って生きていくなんて、そんなつまらない人生を送りたいのですか？

さーさん：

子どものためになるのであればと思ってやってきたのですが、それが子どものためにならないのであれば。。。

いさどん：

それがどう子どものためになるのですか？あなたはこの子にどういう理想を掲げているのですか？

さーさん：

「満たしてあげればのびのびと生きていけるのかな、持って生まれた個性を活かしきって生きていけるのかな」と勝手に思っていました。

いさどん：

この子が持って生まれた個性はあなたが決めるものではありません。この子がのびのび生きるかどうか、その人が持って生まれた個性ですよ。

さーさん：

「神様からいただいた個性をしっかりと活かしてあげないと」と勝手に思っていたのです。

いさどん：

それはあなたが満たされずに不足感を持っているから、「この子は満たしてあげないと、私のような不足感を持つだろう」とあなたが思っているだけのことです。それはあなたの場合の話であって、この子はあなたとは全く別の人格を持っていますからね。あなたは与えられてこなかったから不足感を持っています。しかしこの子は、与えられたから余計にそれがなくてはいけないようになって不足感を持っているのです。

さーさん：

逆なんですね。。。

いさどん：

つまり、どちらにしても不足感を持つということです。足りなさすぎても与えすぎても不足感になるということです。だからこそ、「ここではダメだよ」「ここではいいよ」とメリハリをつけてけじめある躰をすることが健全なことであり愛情なのです。そうやって子どもはしっかりと自分の力で立っていけるようになるのです。

さーさん：

私はこの子を受け止めることばかりやってきたので、ずいぶん偏っていたのだなと思います。前回の面談では、自分の中の不足感を埋めるには「いただくこと」と「委ねること」が大切だと教えていただいたのですが。。

いさどん：

それであなたは次の日に、「わかりました。私は委ねます」と言いましたよね。しかし、1ヶ月のトレーニングのためにここに来たら、もうすっかり委ねることを忘れてしまっているのです。

さーさん：

ここに来たら自分の欠点が沢山出るのだろうなと思っていたのですが。。

いさどん：

あなたは欠点が出ないように出ないように1週間を過ごしてきました。しかし、私から見たら欠点だらけです（笑）。でも、欠点をいちいち指摘していたらあなたの癖も出なくなってしまうから、「ひどい子育てをしている」と思いながら眺めていました。

さーさん：

ここで「わかりました」と言っても、本当はわかっていないということなのですよ。。

いさどん：

今は、自分に問題があることがわかればいいのです。前回の面談でもあなたに問題があるということを伝えてきました。あなたの思い込みはなかなか根深いものがあります。

あなたは私の解釈からすると「学ばない」のです。あなたはレイキやらヒーリングやら色々学んできたと言っていましたが、それはあなたが学ばない人だからそういうことをやってきたのですよ。「学ぶ」ということは「自分を越えたものをいただく」ということです。

さーさん：

学ぶってそういうことなんだ！

いさどん：

例えて言えば、あなたは学校に行って自分の知っていることを先生に教えてもらって、テストでいつも 100 点を取っている。さらに言えばそれが 50 点だったら、「これは私が 50 点を取ったのが問題なのではなくて、先生が私の知っている問題を出さなかったからいけないのです」と言っているようなものです。だから、あなたは自分の知っている問題をテストに出す人を先生にして、いつも 100 点を取りたいのです。あなたはそういうことをやってきたのです。

学ぶということは知らないことをいただくことです。そこに謙虚さがあって初めて、古いものを捨て代わりに新しいものが入ってくるのです。だから成長し、成長するから希望が湧くのです。あなたは自分の枠の中に自分を置いておきたい、満点の自分でありたいのですが、いつも満点を求めているはずなのに、現実には行き詰まっているのです。学ばないから希望が湧かないのです。

ここに来て 1 週間経ちましたから、これからは実践ですよ！何を実践するのかと聞いたら、この子と自分との距離を健全にするというのが当面の目標です。こんなに大きい子におっぱいをあげていたら、おっぱいが垂れてしまいますよ（笑）。栄養ももうないのですし。

さーさん：

自分たちの関係が不健全だとは気がつきませんでした。。。

いさどん：

この子どもは誰にでも友好的ですよ。

さーさん：

この子どもたちとは全然違うなとは思いますが。ここではみんなの子として自然に育てているのだなと思います。私は自分が他人を信頼出来ないから、この子もそうなのかなと思っていたのですが、それ以前の問題ですよ。

いさどん：

そうではなくて、あなたがこの子を自分のものにしてしているのです。この子の将来のことも、この子がどういう子であるのかということも、全部あなたが決めているのです。あなたが言っている、「のびのびと育てて、神様からいただいたこの子らしい人生を歩んでほしい」ということをあなたがもっとも阻害しているのですよ。

さーさん：

もう阻害したくないです！それだけはやめたいです！

いさどん：  
どうしてですか？

さーさん：  
それでは子どものためにならないからです。今まではそれが子どものためにならないとわか  
っていませんでした。

いさどん：  
子どものためですか？あなたはそうやって、自分で子どもの未来を創るのです。子どもの未  
来はこの子のためにあってこの子のものですよ。なぜ子どもの未来をあなたが決めるので  
すか？それよりも何よりも、まずは自分の未来を心配しないといけませんよ。子どもとの関係  
でも旦那さんとの付き合いでも、自分のことを考えないといけないのではないですか？自分  
が幸せであって初めて、他人に健全をもたらすことが出来るのです。

だから、前回の面談ではあなたを崩すために長い時間をかけてお話ししたのです。

さーさん：  
まだ崩れていなかったということですね。

いさどん  
前回の面談の前にまだあなたと話をしてもないのに、「この人を一回崩す必要がある」と  
私が思ったということは、あなたからそういうオーラが相当出ているということです。そし  
て、前回の面談があって、今日はさらに輪をかけて「崩し2ラウンド目」が行なわれている  
ということです（笑）。

さーさん：  
その次の日の面談では、「あなたはもう崩す必要はありませんね」と言われたので。。。本当  
に崩れていたのかなと思っていたのですが。。。。

いさどん：  
「崩す必要がない」と私が言ったのは、あなたのその思いこみの激しさと情熱は崩す必要が  
ないということです。

さーさん：  
思いこみの激しさですか？

いさどん：  
あなたは「この子のため」と言って、この子のためにならないようなことをやってきました。

思いこみが激しいから自分の行動が見えていないのです。しかし、その情熱は有効に使えばいいのですから、崩す必要はないのです。それが間違っていることに気づいて方向転換すればいいのです。

さーさん：

すみませんが、本当によろしくお願いします！

いさどん：

あなたにその気があればいつまでも付き合いますよ。この状態まで来たら、あなたではもうどうにもならない状態ですね。だから、他人に委ねることです。今まであなたは宗教を学んできたのですから、神様に委ねることを学んできたはずですよ。神様はすべてお見通しですから、自分の力で良い人生を求めないで任せることを学んできたあなたが、もっとも委ねていない人になっているのです。

さーさん：

私はよっぽど重症なんだと思います。

いさどん：

重症というのは悪いことばかりではありません。マイナスに進むのもプラスに行くのもエネルギーは一緒なのです。ただ、マイナスに進んだら辛くなりますし、プラスに行きすぎても害にもなります。ですから、愛情を与えすぎると足りなさすぎるとも良くないのです。そのバランスが見えてコントロール出来る人になることが大切です。子どもにも時には思い切り抱っこしてあげたり、時にはしっかりとけじめをつけてあげられる人になればいいのです。

とりあえず、この子と適度な距離をつくるのが次の課題です。ひょっとして、この子との距離が適度になって、あなたがそのことの有効性に気づいたら、あなたは賢いから他のことにも応用できることになりますよ。

さーさん：

前回の面談で、「あなたはヒーリングをするのに向いていません」と言われてすごくびっくりしたのですが、今日の子育ての話はもっとびっくりしました。自分が一番嫌だと思っていたものに自分になっていたなんて、本当に反省してよく考えたいと思います。

いさどん：

あなたはあなたのお母さんがあなたにしてきたことと同じことをしているのです。あなたが旦那さんや子どもにしていることの方がもっと複雑で問題かもしれません。そういった因縁を絶ち切らないと、この子がまたそれを受け継いで結婚し、この子の子どもにそれを伝えていくことになるのです。そうやって人々の生活に情報が伝承されていくのです。アル中でも

ニコチン中毒でも断ち切る時は大変ですが、それをやることによってその人は学んで成長出来ますし、未来にその因縁を渡さないという大きな役割が出来るのです。ひとりひとりがそのことに目覚めていけば、宗教もお祓いもいらぬのです。

さーさん：

「ひとりひとりが」というのは本当に素晴らしい考えですね。本当に真剣に取り組んでいきたいと思います。今日はありがとうございました。